

記 者 提 供 資 料
2025 年（令和 7 年）7 月 24 日
産業振興室豊かな海づくり課 渡邊・福田 （直通）078-918-5254 （内線）2585

稚ダコ（マダコ）の種苗放流について

兵庫県が（公財）ひょうご豊かな海づくり協会に委託して取り組んでいるマダコの種苗量産開発については、令和 6 年度から本市も委託事業者として加わり取り組みを進めています。

このたび、技術開発の過程で生産された着底稚ダコ※を活用し、明石市大蔵海岸、淡路市江井港（予定）、淡路市仮屋漁港の 3 か所において試験的な放流を実施します。

このうち明石市大蔵海岸での試験放流については、報道機関向けに公開しますので、下記のとおりお知らせします。

なお、マダコ種苗の放流は、全国でも事例が少なく、今回の放流数は過去最多規模となる予定です。マダコ種苗生産に関する詳細は、別添資料をご参照ください

1 放流日時と場所

日時：2025 年（令和 7 年）8 月 1 日（金）午後 1 時

場所：大蔵海岸海水浴場（明石市大蔵海岸通）

2 放流予定数

着底稚ダコ（日齢約 30 日）約 1 万匹

※ 生産の進捗により、放流予定数が変動する可能性があります。



3 生産施設

（公財）ひょうご豊かな海づくり協会明石事業場（明石市二見町南二見 22-33）

4 協力機関

明石市

明石市漁業組合連合会

5 取材対応

（1）放流当日

放流当日に現地取材を希望される場合は、別紙申込票を記入いただき、7 月 30 日（水）までに兵庫県水産漁港課あてメールで申込みください。

（2）生産状況

生産状況や施設の取材を希望される場合は、7 月 30 日（水）まで（公財）ひょうご豊かな海づくり協会明石事業場内を取材いただけます。

取材を希望される場合は下記までお問い合わせください。

（公財）ひょうご豊かな海づくり協会 電話：078-943-811



着底稚ダコ

6 その他

放流は小雨でも決行しますが、荒天等でやむを得ず中止する場合は、事前にお申込みいただいた連絡先メールアドレスに 8 月 1 日（金）午前 9 時までにご連絡します。

※「着底稚ダコ」

マダコは、孵化して約 20～30 日の間は浮遊し、その後海底に着底して生活します。

浮遊期は遊泳力が乏しく捕食される可能性が高いことから、放流後のより高い生残率が期待される着底した稚ダコ（着底稚ダコ）の安定生産に向け技術開発に取り組んでいます。

兵庫県農林水産部水産漁港課漁政班（漁場環境担当）あて
(e-mail:suisangyokou@pref.hyogo.lg.jp)

マダコ種苗の試験放流 取材申込票

標記の件について、下記のとおり申し込みます。

機関名	代表者氏名	人数	連絡先
			電話番号
			E-mail

※ お車でお越しの場合は、近隣の有料駐車場をご利用ください。

マダコ種苗の生産技術開発の概要

1 種苗生産技術開発に取り組む経緯

- (1) マダコは兵庫県の瀬戸内海では古くから漁獲量が多く、夏を代表とする水産物として有名であるが、貧栄養化の影響などから漁獲量の減少が続いており、資源増大の対策が求められている。
- (2) マダコの種苗生産は、1960年代に本県が日本で初めて種苗生産に成功したものの、浮遊後期の大型餌料の大量確保の課題が解決できず量産化に至らなかった。
- (3) 近年の国立研究開発法人水産研究・教育機構や岡山県の研究で、水流装置の開発や初期餌料へのガザミの幼生（ゾエア）の利用などで生残率が向上するなど、放流の目安となる「着底稚ダコ」の量産に繋がる新たな知見が得られた。
- (4) そこで県では、ガザミの放流種苗を生産している（公財）ひょうご豊かな海づくり協会と連携し、令和5年度からマダコ種苗の生産技術開発に取り組み、本格的な種苗放流の実施を目指している。

2 これまでの成果等

(1) 令和5年度（1年目）の成果

- ア 6月末に岡山県水産研究所から孵化幼生 5,000 匹の提供を受け、飼育開始。
- イ 7月末に着底稚ダコを取り上げ、約 2,300 匹の飼育に成功。しかしその後、予見していた共食いにより日齢 55 日目には 320 匹となり、1 回目の試験を終了。
- ウ 2 回目の試験で、8 月中旬に孵化幼生約 50,000 個体を収容したが日齢 7 日程度で大量斃死。原因は不明だが、高水温(27-29℃)の影響と推測。
- エ 3 回目の試験で、10 月から 11 月にかけて孵化幼生計 2,000 個体を収容。秋に確保できないガザミ幼生に代わる餌料の探索を試みたが、有効な代替餌料を見つけれず、着底稚ダコの生産に至らなかった。

(2) 令和6年度（2年目）の成果

- ア 6月末に県内産親ダコの卵から孵化幼生 17,000 匹を収容し、飼育開始。
- イ 7月末に着底稚ダコを取り上げし、約 12,000 匹の生残を確認。
- ウ 8月5日に約 2,500 匹を明石市江井島海岸に放流。

(3) 令和7年度（3年目）の進捗

- ア 6月末から7月上旬にかけて県内産親ダコの卵から孵化幼生 97,000 匹を収容し、飼育開始。

3 今後の課題

(1) 種苗生産の効率化と代替餌料の探索

大型水槽を用いた飼育や飼育装置の改良、ガザミ幼生に代わる餌料の探索など、量産技術の開発に取り組む。

(2) 放流適地の検討

稚ダコの分布場所や生育環境等を調査し、放流に適した場所や条件等を検討する。

(3) 放流方法の試験

ノリ網等に付着させて放流するなど、放流後の生産率を高める効果的な放流方法を開発する。

【参考】

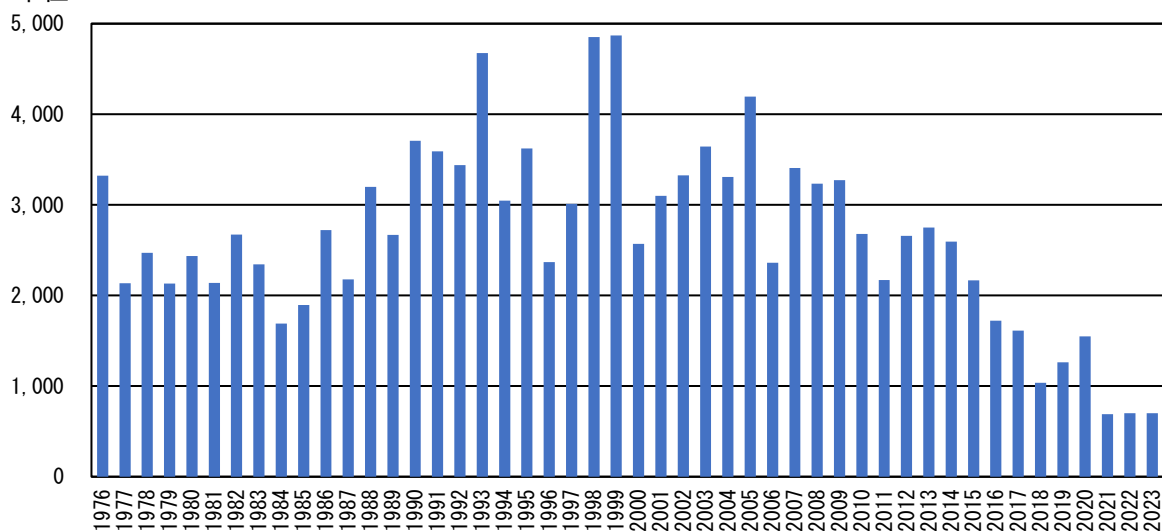
1 生産技術開発のスケジュール

指標名	R5	R6	R7	R8	R9	最終目標
着底稚ダコ※ 生産数	1 千匹	5 千匹	25 千匹	—		25 千匹 【R7 年度】
マダコ種苗 放流数	—		10 千匹	20 千匹	100 千匹	100 千匹 【R9 年度】

※浮遊生活を終えた約 30 日齢の稚ダコ

2 本県瀬戸内海海域におけるタコ類の漁獲量

単位：t



出典：農林水産省 海面漁業生産統計調査

3 マダコの成長過程



卵を管理する親ダコ



浮遊生活を送る幼生



着底直後の稚ダコ



孵化 68 日目の稚ダコ

4 明石市地先における資源管理等の取組

産卵用タコつぼの投入や抱卵ダコの再放流といった資源保護、海底耕うんや有機肥料を用いた栄養塩供給といった生息環境改善の取組を実施。

また、遊漁によるタコの採捕も漁獲量の減少要因とも考えられることから、「明石市沿岸のタコ釣りルール」を設けるなど、遊漁者とも調整を図りながら管理に取り組んでいる。

【明石市沿岸のタコ釣りルール】

[https://www.hyogo-suigi.jp/fishing/wp-](https://www.hyogo-suigi.jp/fishing/wp-content/uploads/sites/4/2024/01/141013ce3ed9fa5c206a421dc4c011bb-6.pdf)

[content/uploads/sites/4/2024/01/141013ce3ed9fa5c206a421dc4c011bb-6. pdf](https://www.hyogo-suigi.jp/fishing/wp-content/uploads/sites/4/2024/01/141013ce3ed9fa5c206a421dc4c011bb-6.pdf)